



第六節



114
A 4437
3

○第九十五號ノ添書第二

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



書翰

ウ井ルレムスヨリビシガムニ送レル

先月差立候書中此地政府ヨリ回答ノ概略ヲ認
メ日本方サニ台湾ニ事アラントスル趣申進シ
候以來右出征差止メ相成リタリトノ説アリ又
征兵既ニ台湾ノ西南隅ニ上陸シタリトノ説ア
リ右両説トモ全ク跡形ナキトハ有之間鋪前
事實詳細御報知被下度朝首御待申上候
支那官人レゼンドルヲ日本ニ雇テ儀及ヒ其

2

他方出征ニ関係ノ事件ヲ傳込ニ余カ所ニ来リ
合衆國ハ中立ノ布告ヲ發センヤ否ヲ問フ蓋シ
支那人ハ大イニ今回ノ事ヲ憂慮スルノ様子ナ
リ依テ余カ見込ヲ吐露シ支那ヨリモ江戸ニ公
使ヲ置カハ事實ノ確報ヲ得テ新聞飛語ニ惑ハ
サル、ノ憂ナカラシムラ勸メ置キ候又支那ニ
モ其國製造ノ完好ナル船艦アルイナレハ之ヲ
台湾近海ニ配賦シ置カ少クモ日本船ノ舉動
ヲ候察スルノ用ヲ為スルキ段勸メ置候
其後數日ヲ經テ又書翰ヲ送一リ此書足下ノ御

心得ニモ可相成トナシ候間拙者回答ノ寫シ一通
相添封入差上申候

此度日本新任ノ使節ハ未タ上海ニ到着セス此
使節北京ニ着セハ彼此互ニ情実ヲ交換候事可
有之ト奉存候也

千八百七十四年五月廿六日北京合衆國公使
館ニ於テ

エス、ウエルス、ウヰルレムス

追啓先書差立候後千八百七十二一年十一月六日
デロングヨリフイシヘテ書状ヲ讀ム候ニ其中

琉球ノ日本へ附屬ノ模様ヲ載セ頗々詳カリ古
書狀ノ趣ニテハ其附屬曾テ余ノ臆想仕候ヨリ
ハ確實ノ者ニ御座候

○第九十五號ノ添書第三

ビンガム氏ヨリウヰルレムスニ送レ

ル書翰

先月廿四日台湾出兵及ビゼ子ラルレゼンドル
電報ノ事ニ付御報知辱ク落手イタシ候
レゼンドルハ日本政府ノ武官ニ任セラレ候旨

兼リ候同氏電報中取モ密通ナル關係アル國ト
申シ候ハ何レヲ指シ候ヤ解シ兼候得ル蓋シ同
氏ノ意暗ニ合衆國ヲモ共中ノ一ト致シ候様察
セラレ候

台湾出兵ノ事ニ付余ノ處置振ハ合衆國政府ヨ
リ足下へ通知アルヘク右征兵ノ未タ日本ヲ離
レサル前即チ去ル四月十八日及ビ十九日ニ於
テ余日本外務卿へ書ヲ贈リ日本政府先ツ支那
ヨリ許諾ノ証書ヲ得テ後ニ非レハ台湾出兵ノ
事ニ就テ合衆國ノ船艦及ビ人民雇用ノ儀ハ一

切相断リ候旨申入レ置候然ル共先月二十二日
外務卿ヨリ書翰ヲ以ニユーヨーク船ゼマラル
レゼンドル、リウテナントコンマンドルカツ
ルミストルワツソノ三名、余ノ請ニ従ヒ従行
ラ止ムルニ決シ其旨長崎へ通シ置キタリ外ノ
回答アリ其後外務卿ト面談ノ節右指令ハ征兵
出立ノ前相違ナク長崎へ相違スヘク且ツ余ヨ
リ右三名エ許可ヲ得ス、テ征兵ト共ニ出發ス
可カラサル旨ヲ云ヒ送リタル書翰モ必ラス相
違スヘキノ話アリ既ニシテレゼンドルノ果シ

テ征兵ニ加ハラス東京ニ歸着仕候

右始末足下ヨリ支那政府へ御通シ置被下度候
ナリ

今回ノ事ニ就テ日本ノ旨意ヲ洞悉致シ兼子候
得共外務卿ノ話ニテハ日本政府兵力ヲ以テ台
湾ニ入ルノ意ハ曾テ無之由申シ居候然レモ念
ノ為メ先ツ支那政府へ懸ケ合ヒ出兵致シ候テ
決シテ異論ナキ趣ノ証書取り置キ不虞ノ故陸
ナキ様致シ候方可然ト外務卿へ勸メ置候
余ノ意ハ萬事支那トノ条約ニ乖カサル様盡力

致シ候心底ニ候間此段ハ却安心可被下候也

千八百七十四年五月十六日東京合衆國公使

館ニ於テ

ビンガム就首

○第九十五号添書第四

ビンガムヨリシワードニ贈レル書翰

近日得ル所ノ報知ニ就テ足下へ申シ通シ置
ヘキ事アリ曩者日本征兵ノ未タ台湾或ハ他ノ
支那ノ地へ向ケ出發致ケル前即チ前月十八
日及ヒ十九日書翰ヲ以テ日本外務卿、日本政

府先ツ支那ヨリ許諾ノ證書ヲ得ルニ非レハ台

湾出兵ノ事ニ付テ合衆國ノ船艦及ヒ人民雇用

ノ儀一切相断リ候趣掛シ置候

然ル処四月二十二日即チ征兵ノ未タ長崎港ヲ

發セサル前日本外務卿ヨリ余ノ掛合ニ從テ

一ヨルク船及ヒレゼンドル、カツセル、北京在留

ノウキルレハ
此處原文恐ク
ハ脱誤アラシ

千八百六十年ノ律(支那及日本條約施行ノ為

メ)第七十二回十二スタチー
一ニハエト、ラ

シ中定ムル所ノ規則支那寄留ノ合衆國人民
シテ細カニ履行セシメ候様精々御注意アリ度
存候也

千八百七十四年五月十八日東京合衆國公使
館ニ於テ

シヨン、エ、ビンガム

○第九十五號ノ添書並五

シワードヨリビ
ガムヘ送レル書翰

第二十二號

台湾出兵ノ儀ニ付本月十八日ノ貴翰敬テ落掌
仕候足下御申越ノ条々取マトメ書翰ニ認メ候
テ支那各國領事ヘ夫々付遣シ且古出兵ノ儀ニ
付テハ諸領事務メテ我人民ノ之ニ關係セサル
様説諭シ且ツ法制ニ觸レサルダケハ手ヲ
テ之ヲ禁止候事我政府ノ意ニ有之段申通シ直
候
貴翰ノ寫シ一通ウキルレムス氏ヘ相回シ置候
也

千八百七十五年五月三十日上海合衆國總領

事館ニ於テ

総領事ヨリジ、エフ、シワード

○第九十五號ノ添書第六

コンマンドルカウツヨリノ電報并ニ

ドミラールペンノツクノ回答

総督(支那)日本人ヲシテ台湾ヲ去ラシメントシ
且ツ領事ノ米人ニ令シ、日本兵ヲ助クルナ
カラシメンヲ請フ曰テ領事ヨリ余モ亦カラ戮
セテ共ニ米人ノ征台兵ニ加ハル者ヲ制止ス

トノ掛合アリタリ

右指令ヲ候ス

千八百七十四年六月一日

廈門モノカシト船ニ於テ

カウツ

横濱ハルトホルド船

ケビテイソルハウン貴下

乙

総テ支那政府ト友誼ヲ破ヘキ事件ニ關係シ
又ハ條約面ト齟齬致シ候所業一切有之月鋪萬

一違背ノ者ハ合衆國ノ屬籍ヲ除クキ越諸米
國人ヘ布令シ右様ノ事無ニ様御制止可有之候
ナリ

千八百七十四年六月四日

リールアドミラルルペン

支那厦門領事配下合衆國汽船モノカ
船將

アルベルトカウ、貴下

○第四百三十九號

フイシ氏ヨリビンガムヘノ書翰

第六十號

先頃台湾征討ノ事ニ合衆國人ノ加入候儀及ヒ
右へ米船使用ノ儀ニ付御問合セノ条々承知ノ
タシ候右事件ニ付テハ足下合衆國人民及ヒ船
艦御引止メ被成候處置至當ノ儀ト存候向此候
ニ付テハ先日本省ヨリ遣シ置候指令書御見合
可被成千八百六十年六月二十二日ノ律中ニ合
衆國ノ民支那及日本ノ海軍軍ニ入りテ合衆國
ト友睦ナル國ヲ討チ又ハ其謀反騷亂ニ加ハ

者アレハ公使之ヲ制止スルヲ許ルズノ明文
リ且ツ説諭又ハ布告等ニ
聞入レサル節ハ公
使ノ權限ニ戻ラサル
文ケハ手ヲ下シテ制止
致
シ不苦事ニ御坐候

此律ニ依テ合衆國公使ニ許ルス所ノ權ハ布
恰モ今回ノ事ニ適用致スヘキ者ナリト本
於テ評決イタシ候ナリ
合衆國政府ノ公使タル者ハカヲ盡シテ此法制
ニ履行致サセ候事其任務ニ御坐候併ナカラ
抵ハ手ヲ下シテ制止候マテニ至リ候
有之

間鋪ト存候

ゼ子ラルレゼンドルヨリ千八百六十年ノ條約
ハ政体ニ背キ候トノ文言ニ付足下ノ御回答ハ
是又至當ノ儀ト存候
總テ政府ノ士官タル者國
會決議ノ政体ニ背クト背カサルトヲ審判
又
候推ハ無之加フルニ國會ニ於テ不法ノ
致シ候マテハ如何様ノ律ニ候トモ皆政
ヘル者ト看做スヘキ儀ニ候也

台湾征行ヘ加ハリ候ワツ
ノ儀ハ千八百七
十二年七月一日以來合衆國ノ官ニ列シ候事

之趣陸軍卿ヨリ本省へ報知有之候

千八百七十四年七月廿一日華盛頓外務省

於テ

ハミルトン、フイ

○第四百四十號

ビンガムヨリフイシへノ書翰

第百五號 (九月一日着)

本月二十一日附ケ閣下ヨリノ電報本月二十九日午後四時着謹テ落手仕リ米國人ニ令シテ支

那トノ葛藤ニ關係不致様可致与ノ御持分敬諾仕候

因テ御指令ニ從ヒ諸領事へ米人ノ支那事件ニ關係イタシ候者無之様可取計旨布告致シ置キ候兵庫及横濱領事ヨリハ右布告本月二十八日廣告致シ候由長崎領事へモ右ノ趣電信ヲ以テ申遣シ置候得ハ定メテ廣告致シ候儀ト奉存候天津ニ於テ取結ヒ候支那トノ條約二十六條熟讀仕候米人右條約ヲ尊重ニ違戾不致様注意致候事米國貿易ノ為メニ必要ノ事ト奉存候ナリ

本月二十八日外務卿へ面會其節拙者申候ニ
日本ノ權利ハ拙者飽マテ專致シ候心底ニテ
貴國支那トノ交際ニ於テ何事ヲ生シ候モ決シ
テ拙者ノ容喙スヘキトニ非ス但合衆國ニ國
一對シ候交際ヲ保合致シ候為メニ候得百日又
間ノ事情ハ委シク兼知致シ置度段申候處寺島
ノ話ニ台湾攻入以來支那ヨリ兩度掛合有之其
初度ノ掛合ニハ日本速カニ台地ノ兵ヲ撤スヘ
キ由申來リ第二次ノ掛合ニハ日本既ニ牡丹人
ヲ懲罰シタレハ今ハ其兵ヲ撤スヘク然レバ支

那ヨリ彼地ニ燈臺ヲ築キ且ツ吾來ハ海陸軍ヲ
備ヘテ外國ノ貿易ヲ護ルヘキ段申來リ候由然
ルニ日本ニテハ此兩条トモニ拒絕致シ候由拙
者之ヲ聞テ驚愕仕リ曰テ相察シ候ニ日本ノ内
意右島中ノ既ニ攻略セル一部ヲ占有致シ候所
存ト察セラレ候又寺島ノ話ニ支那第二ノ掛合
後使節ヲ絶チテ專ハラ戰備ヲ為シ候様子日本
ヨリハ使節ヲ北京ニ送リテ目今掛合中ナルト
モ其結局ハ寺島未タ兼知不致由ニ御坐候
先月六日附テ第四十三號ノ尊翰貴省ニ於テ

起レル戦ニ於テハ之ヲ使用スルモ其人并ニ日本ヲ責ム可カラスト然ルニ政体ニ於テ國會、時々法制ヲ設ケ条約ノ布行ヲ助クヘキ任アリトスル時ハ國會得テ此条約ト乖戾スルノ法ヲ立ツルノ理ナシ故ニ千八百六十年ノ法ハ台長國ノ民ニ用フヘクシテ日本ニ用フ可カラス日本ハ千八百五十八年ノ条約ニ依テ若干ノ特權ヲ有スルノ理アルト疑ヲ容レス然ルニ千八百六十年ノ法合衆國人ノ日本及其民トノ交際ニ於テ其自由ノ幾分ヲ剥キ以テ其一方或ハ双方

18
ヲシテ右特權ヲ失ハシムルヲ觀レハ千八百六十年ノ法ハ曾テ日本ニ用フヘキ者ニ非ズ又此法ヲ立ツル者ノ意之ヲ日本ニ用ヒント欲スル者ニ非スト言フヘキナリ元來此法ハ往年支那太平王ノ乱ノ時合衆國ノ無賴人ワルド及ブルゼウ井ン等之ニ加ハリ殊ニブルゼウ井ンハ地方ノ間ニ反覆去就シテ害ヲ為セシニ曰リ國會之ニ懲リテ他日獨リ支那ノミナラス凡テ此類ノ虞アルヘキ國ニ於テ再々此ノ如キトナカシシメンカ為トニ此法ヲ設ケ且ツ獨リ内乱ノ時

ニ當テ其一方ヲ助クルノミナラス遂ニ之ヲ推
擴シテ此等ノ諸國合衆國ト友睦ノ國ニ對シ兵
ヲ構フル時其海陸軍ニ加ハルヲ禁ストノ條制
ヲモ立テタルナリ故ニ支那及暹羅ノ如キ其條
約中ニ右ノ如キ文面ナキ國ニハ之ヲ用フハ
ト虽モ之ヲ日本ニ用フ可カラス又其後ノ新條
約ニ於テ改メテ此法ヲ文中ニ挿入セシメテ
ハ可ナリト虽モ未タ之ヲ挿入セシメテアラス之
ヲ挿入スルマテハ其都度々々明ラカキ日六ノ
許諾スルヲ待テ後ニ非レハ之ヲ以テ千八百五

十八年ノ條約ヲ曲クルヲ能ハス然ルニ日本
曾テ此許諾ヲ為サ、リ、ト、ハ今回ノ事千八百
六十年ノ法ヲ批ラス千八百五十八年ノ條約ニ
批リテ未タ台湾及支那ニ関戦ノ宣告ヲ為サ、
ル前日本政府米人ヲ雇ヒタルヲ以テ証スヘシ
故ニ日本及合衆國人ニ在テハ此條約面ニ憑ル
シテ其處置ノ不正ナラサルヲ辨解スルヲ得ル
ナリ

千八百七十四年八月七日

チャールス、ダブリュー、レゼンドル

